

災患善云々をよも職員職ニ就テも今回の震災ニテは二千八百
適當一階正位に同善義會を以て云々即ち開成を尚會振助
るを以て平常の半薪を減行するも吾人未だ將來の會振助料主
題は今回會振助費の自然減額を震災ニ基因する財害の莫大を
御細見の遊場

以上ニ職員聯合御細見合拜ハ式ノ遊場ニシテ

同善義會市参閣並東京財樂協ニ聯合符指ノ御密會ニ開辦ニシテ

悲事難クヌハテ同善義會聯合拜ハ取回イキスル事ニ出來テ正日御細
見上ノ二項ニ示シテ之ヲ交辦ナシイニテ兼薪手當ニ關シテハ一

一、職員ノ普並薪手當ハ會振助室ノ最高額ニ支給スル事

一、職員ノ漸級級手當半額三十半ニ二十五半ニ減額スル事

ニ交辦ニ重キニ御會振助ニハ

ハ事イナクテ同善義會御細見前田岡太田ニ土京ナシメ會振助イ交辦

職員聯合ニハ二十八日職員財樂協ニ御細見會ニ開キ發達ノ難回ニ就

財團法人協調會大阪支所

財團法人協調會大阪支所

食

船の如きは其震災程度損害程度に於て郵船に劣らざるに拘らず
何等減員減給の評を聞かず吾人の海員組合は震災發生以來全力
を救護事業に注ぎ此の震災を機會に勞資階級の接會を圖り階級
意識を取り去りて上下一致現時の國難を救ひ新日本の健設を圖
らんとする際に當り郵船は單に株主配當の減退を慮り餘り吾人
震災海員の破産せる生活上に更に義務奉公の企圖を踏躰せんこ
するものである従つて最早妥協の餘地なし、かく組合幹部の意
嚮は確決してある、要は東泊郵船海員の決心次第である、吾
人は敢てストライキの煽動を爲すものに非ざるも諸君がストラ
イキを斷行せば諸君の骨は組合が拾ふ」

處ガ同夜八時横濱ニ向ケ神戸港ヲ出帆スル筈ノ歐洲航路賀丸ノ
機關部員四十名ハ結束シテ下船申出デ遂ニ同夜木原火夫長以下悉
ク下船シタ爲メ會社側ハ豫備員七十名ニ乗船方ヲ申込ダ處其ノ